

桑村常彦先生と桑研の思い出

— 卒業50周年記念誌 —

2014（平成26）年10月25日

群馬大学工学部合成化学科桑村研究室
桑研39会

目次

巻頭写真

桑村常彦先生	1
桑研39会	2

写真集

アルバム(1) 桑村常彦先生を偲ぶ会にて	桑村常彦先生	3
アルバム(2)	荒居正和	7
アルバム(3)	塩沢紘一	13
アルバム(4)	中川芳高	17

序

荒居正和	23
------	----

1 桑村常彦先生の思い出(50音順)

日本橋三越裏 老舗蕎麦屋での会食	赤崎豊	25
三菱油化はどうですか	荒居正和	29
先生の思い出	塩沢紘一	30
もしかしたらノーベル賞	永倉功	32
桜	永倉功	
名古屋の観光案内	藤井誠之助	34

2 桑研の思い出(50音順)

行道山輪講合宿	荒居正和	35
桑研の思い出	中川芳高	36
桑研の思い出	永倉功	38
グリシジルエーテルの合成	藤井誠之助	39

3 付属資料

(1) 2003年 第1回桑研39会	関口勝宏	41
(2) 2004年 第2回桑研39会	荒居正和	43
(3) 2007年 第3回桑研39会	永倉功	45
(4) 2010年 第4回桑研39会	荒居正和	47
(5) 発慶会ゴルフ会	荒居正和	50
(6) 桑村先生の愛唱歌: 仙台小唄	永倉功	52
(7) 年表	荒居正和	53
(8) 会員名簿	永倉功	54



桑村常彦先生

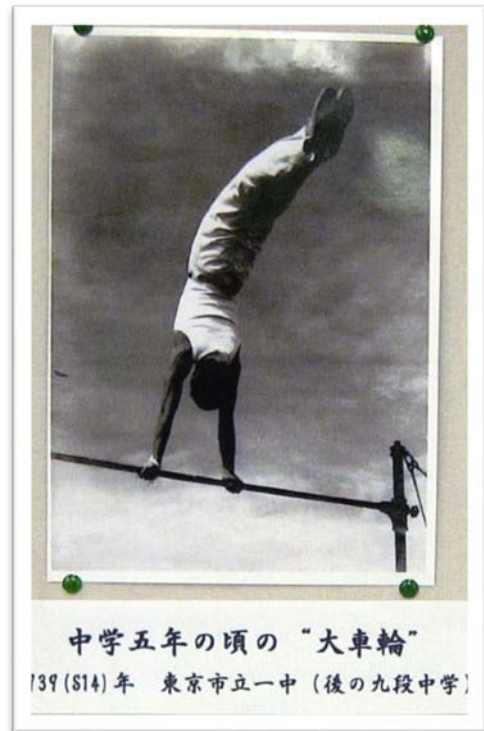
塩沢コメント：1968年9月または10月　パリ
第5回世界界面活性剤会議にて、ご自身の研究成果を紹介



桑研39会 1964年

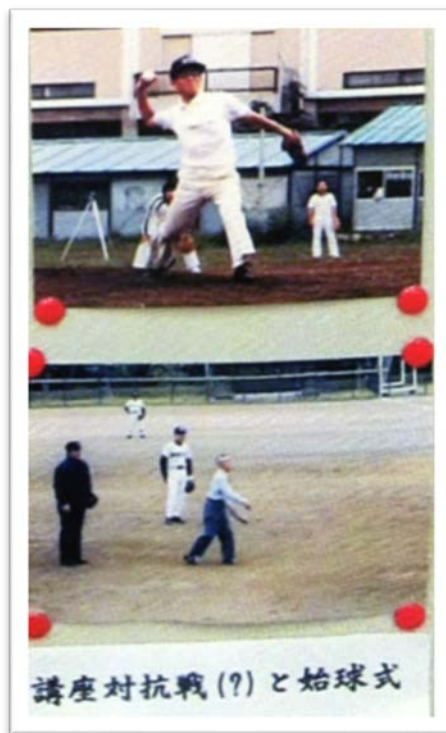
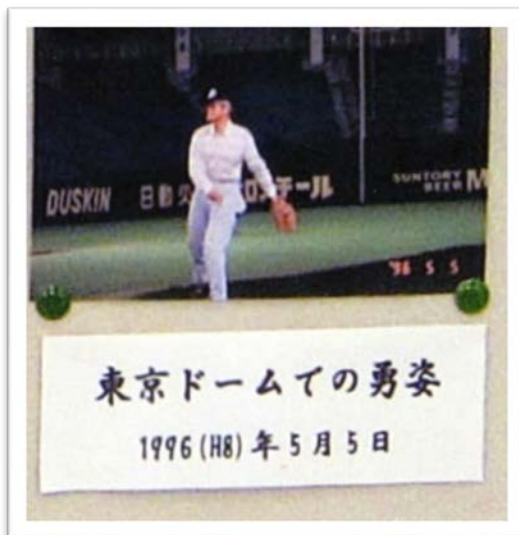
前列右から、高橋秀男先生、亀山榮一先生、桑村常彦先生、滝本（現、澤井）絹子さん、
笹原幸治、小林義弘

後列右から、塩沢紘一、永倉功、赤崎豊、荒居正和、岩本好右、木村清、中川芳高、
朝倉信人、藤井誠之助、関口勝宏



アルバム（1）桑村常彦先生





アルバム（1）桑村常彦先生





1964年
菅平

1981年9月5日 還暦祝い



1987年10月3日 退官記念祝賀会





1999年5月29日 喜寿・勲三等叙勲記念祝賀

写真下

前列左から、2人目長女の登坂慶子さん、3人目岩本夫人、桑村先生、
5人目荒居夫人

後列左から、2人目次女の松沢喜久恵さん



1998年9月26日 第1回発慶会総会



2004年5月28日 赤城山



2003年5月23日 城山 CC



1997年10月24日 グリーンパーク CC

2000年5月19日 足利城 CC

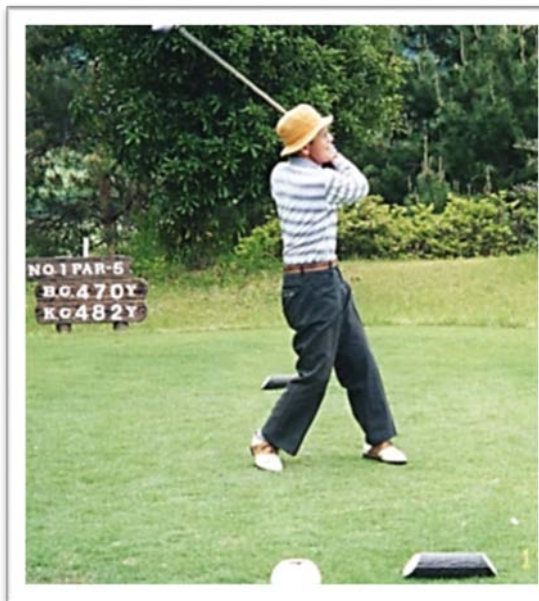


2000年10月27日
足利城 CC

2000年5月19日 足利城 CC

2002年5月24日 城山 CC





2000年5月19日 足利城 CC



2003年5月23日 城山 CC

2005年10月21日 太田双葉 CC 83歳の華麗なドライバーショット

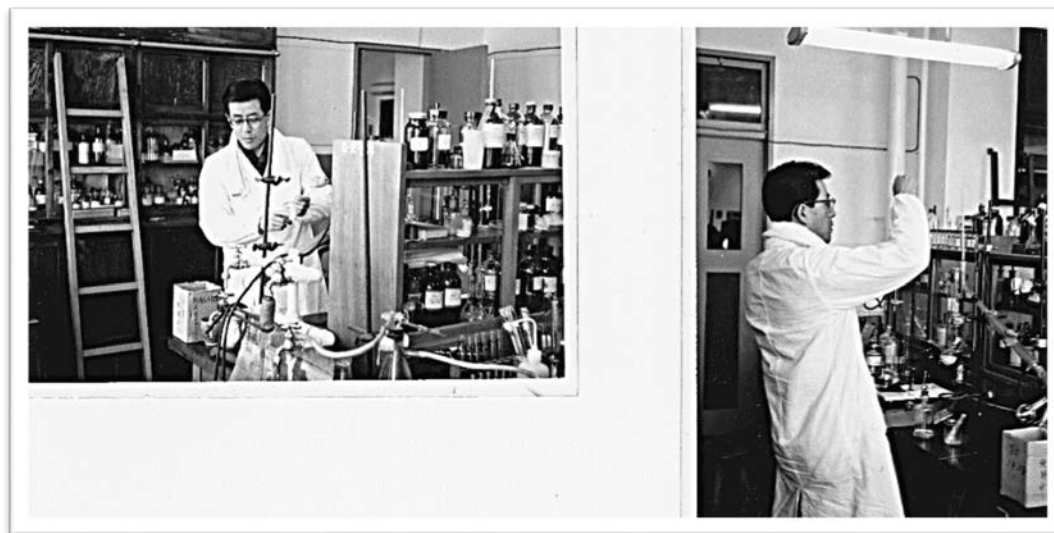




2003年5月23日 城山 CC



2003年
8月25日
蓼科東急
ゴルフコ
ース

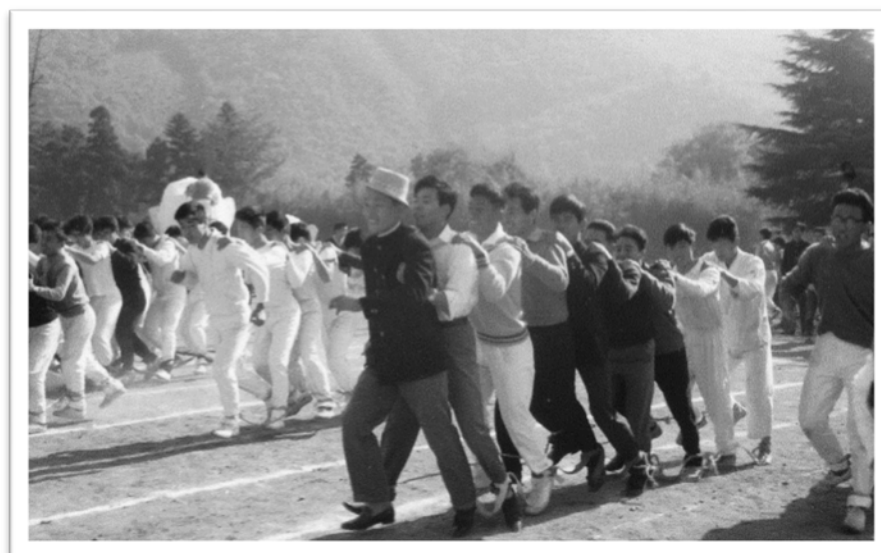


1963年 実験中の桑村先生



1963年 九州一周旅行

1967年 赤崎と永倉 飯田橋界限で



1963

工学部運動会
桑研チーム



1992年5月2日、東京ドーム

桑村先生の塩沢宛お手紙：

私の古希祝いと称して、野球好きの連中が八十名程集まり（因みに、会費二万円、会場費百万円、記念品参加者全員に桑研マークの野球帽と手拭い・・・四十万円、懇親会は立ち食いパーティ） 我も我もとマウンドへ昇りたがり大さわぎ。私は特別のご配慮で四回を投げさせて頂き、三回はシャットアウト、四回は味方のエラーで3点を取られ降板と云う幸運で恵まれました。（原文通り）

写真上段：ピッチャーは桑村先生。ファースト中川

写真下段：最前列左から2人目お孫さんを抱いた慶子さん、4人目奥様、5人目お孫さんの綾ちゃん（中1）、8人目桑村先生（黄色い帽子）



左：1995年10月中旬 北京故宮前 奥さまと

右：1996年10月 中国万里の長城の八達嶺にて 長女慶子さんと



1996年8月9日

田沢湖 お二人の娘さんと
と四人のお孫さんと

1996年5月 赤城山の
蕎麦屋にて





2012年4月11日 桐生市・藪塚「ブルーメンハイム」にて



アルバム（４）中川芳高



1963年3月 38年組の先輩と





群大工学部正門

化学棟



桑研・実験室



アルバム（４）中川芳高



1963年8月
行道山輪行合宿



清津峡研修旅行



編集者注：清津峡（新潟県十日町市）は 1949 年指定の上信越国立公園。

黒部峡谷・大杉谷とともに日本三大峡谷。





序

荒居正和

「桑研39会の文集をつくろう。そして桑村常彦先生にプレゼントしよう」と何年か前に永倉さんが提案されたことがあります。今年は卒業50周年となる記念の年であることから、永倉さんが幹事で「卒業50周年を祝う会」を桐生市の清風園で開くことになり、併せて文集を作ることになりました。

清風園は桑村先生のお薦めです。「梅田の清風園は良いよ。次回の桑研39会は清風園にしよう」とおっしゃいました。文集は皆さんに寄稿と秘蔵写真・資料の提供をお願いして完成することができました。紙面の都合で全ての写真を掲載できませんでしたが、悪しからずご了解いただきたい。

残念ながら桑村先生（1922年8月3日生まれ）は2012年11月6日に永眠なさいましたが、桑研39会のメンバーにお届けいたします。

桑研39会は桑村常彦先生が素晴らしい。メンバーが良い。そして全員で醸し出す雰囲気が良い。卒業して半世紀にもなる今日まで継続して同窓会を開き、同じ釜の飯を食べて酒を酌み交わし、膝を突き合わせて近況を語り合い、また各人の職場・家庭に戻っていった。職場・家庭は日本はもとよりアメリカ、ヨーロッパそしてアジア各国にまで及んでいる。メンバーが職場で戦い続けられた底力はどこからきたのだろうか？本人の力だけだろうか？それなら疾うに腰折れしていただいでしょう。戦いを後押しした力は何か？桑研39会だったと思う。

先生は「大きく叩けば、大きく響く。小さく叩けば、小さく響く！」とかつておっしゃった。我々は先生を大きく叩いたのだろうか？或る人は大きく、或る人は小さくかも知れない。永年に亘る人もあれば、ほんの短い期間かも知れない。先生の思い出や写真、そして過去の記録を見ると、メンバーの先生を叩く姿とそれに答える先生の響きがある。

日本橋三越裏 老舗蕎麦屋での会食

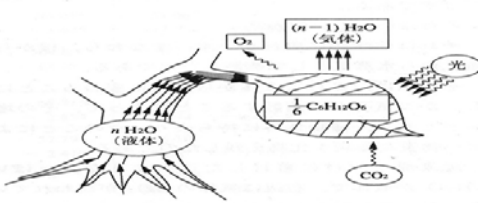
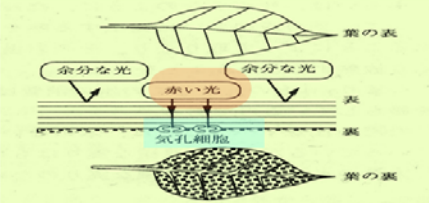
赤崎豊

毎日楽しく、これで良いのかと思うくらい自分の好きなことばかりして、遊び呆けています…。実は退職後も生涯研究者であり続けたいという想いから、私設で自称『EGCC』という名の市民大学を立ち上げ、「地域環境に資源も志源もリサイクルできる生き甲斐の場づくりを行っています。元大学教授や多才なスキルの持ち主も集います。このきっかけの道を論じて頂いたのは、忘れもしない日本橋三越裏、老舗蕎麦屋で会食しながらの桑村先生でした。幼少期、戦後の食糧難を経験し、中学理科で教わった炭酸同化作用は鮮烈な印象で脳裡に残った。そして、いつの間にか化学に進学し、桑村研究室に入っていた。卒業時、就職先に東レや旭化成など紹介頂き、受験するが悉く失敗。その報告会がどうか思い出せないが、先生の昔馴染みの蕎麦屋だった。『そりゃあ～落ちるのは当たり前よ』『初心を忘れるな』と諭され東北大学の向井教授をご紹介頂き、光合成へ向けてスタートすることにしました。有機光化学を専攻し、その後も光や熱に係る化学の仕事に携わってきました。相模中央化学研究所の時代には地球環境に警告を発した「成長の限界（'72年）」や当時頻発する環境問題に接し、仕事柄環境科学や環境経済学という分野にも関心をもつようになっていた。そして、定年退職間際になって『光合成の化学式には現れない水』（勝木渥：物理学に基づく環境の基礎理論：海鳴社 1999）とNHKで放映された『地域通貨の流通する街：Ithaca Hour（2000）』に出会い、大きな衝撃を受け、また反省の機会となった。まさに、両者ともにロハス（LOHAS：後述）の一つの方向を示しており、卒業時の先生の教えを思い起こし、『地域内の互惠活動によって循環型経済は可能か』という自らの仮説検証も含め、未だ懲りずにこの活動を続けています。今回の桑研 39 会・記念文集の場を借りて、少し紹介したいと思います。

光合成の化学式には現れない水

ちょっと面白いと思いませんか？貼付の図は前出の「物理学書」の一部をセミナー用に

植物による物質循環—光合成（水の役割）

化学：右辺に水（H ₂ O）を入れない	$6\text{CO}_2 + 6\text{H}_2\text{O} = \text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6 + 6\text{O}_2$ <small>炭酸ガス 6個 水 6個 ブドウ糖 1個 酸素 6個</small>
生物学：酸素分子の12個の酸素は根から吸い上げた水の酸素から	$6\text{CO}_2 + 12\text{H}_2\text{O} = \text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6 + 6\text{O}_2 + 6\text{H}_2\text{O}$ <small>水 12個 水蒸気 6個（気体）</small>
物理学：葉の気孔からもっと沢山の水蒸気が出ている！	$6\text{CO}_2 + 6\text{H}_2\text{O} = \text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6 + 6\text{O}_2 (+n\text{H}_2\text{O})$ <small>光合成の化学式には表れない水の個数 水蒸気 n：553~680個</small>

光合成で光が吸収されると大量の発熱がある。葉っぱの温度を下げないと植物は焼け死んでしまう。水を吸って、たくさんの蒸気を吐き出すことによって、温度を暴走させず、ブドウ糖を蓄えることができる。

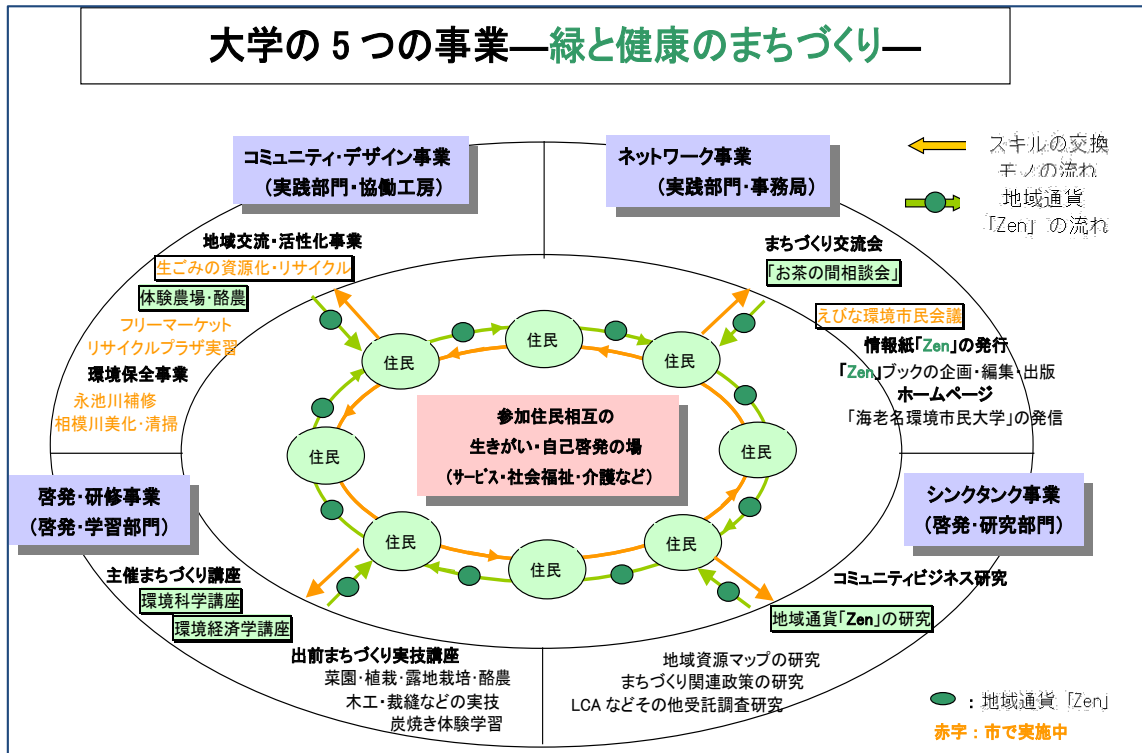
まとめたものだ。学問の分野によって光合成の化学式に違いがある。物理学では、まさに「光合成は物質から生命を生み出すエネルギー変換システムそのものだ」と教えている。自然界では、生き物と言えどもその体は物質から構成され、エントロピーの法則を免れることはできない。そのため、植物はたくさんの水を使い、水の潜熱を棄てることにより、見かけは自然界の法則に逆らったかのように、体は散り散りバラバラにならずに振る舞うことができる。物理の反応式はそのことを教えている。前出のNHK放映も含め、これらは自分が光合成の研究に拘ってきた基は一体何なのか、その意味を問うている。植物は光エネルギーを直接、資源・エネルギーとして蓄えることができる。他の生き物は人間を含め、その恩恵を受け、ただそれを消費するだけの役立たずか。いやそうではない。生態系はすべての生き物たちの生の営み自身が「分解・消費・生産」作業の同時進行による物質循環なのだ。それにより自然は豊かに保たれる。生き物であるかぎり、有効なエネルギーを摂取しあう宿命は避けられないが、その中で頭脳がずば抜けて発達しているのも人間だ。だからこそ人間はエネルギーを摂取し、それを脳内に「自然を豊かにする働きは何なのか」という志源に変えることができる。少なくとも、これからは資源・エネルギーを「生活を豊かにする営み」だけではなく「自然を豊かにする営み」に利用すべきと考えている。

地域で仲間づくり・生き甲斐の場づくり

——環境市民大学構想と活動事例——

丁度定年退職の年だった。まさか自ら市民大学を立ち上げようとは思ってもいなかったが、その活動の直接のきっかけになったのは前に紹介した二つだ。その一つはNHKで放映の『地域通貨の流通する街：Ithaca Hour』（NHK,地球の街角2000）だ。『物々交換を基調とするが、自然の物質循環に関わる人間本来の「働き」の一時間に対し、[Ithaca Hour]という単位の地域通貨が発行される。ドルを使用する街（Ithaca；ニューヨーク州）の現行の市場で買い物もできれば、ドルとの両替も可能である。施行して（放映当時）で8年の実績を持ち、市当局も課税対象から外すなど保護措置がとられている』という内容であった。これは、持続可能な循環型社会を目指す一つの方向性を示している。丁度その1年前、勝木渥著の「環境の基礎理論」に触発され、人間は科学の恩恵で知り得た知識を、「生活を豊かにする営み」の利用に腐心するあまりに、本来の『働く』という意義を置き去りにしてしまった観があると感じていた。私設教室の環境経済学のセミナーで、人間本来の『労働とは何か』『所有権とはなにか』『具体的な形で「自然を豊かにする営み」が取り戻せないか』などと模索していた。ロハス(L i f e s t y l e s O f H e a l t h A n d S u s t a i n a b i l i t y)だ。緑と健康の街づくりという市民による市民のための資源と志源のリサイクルという理念で環境市民大学の構想を描き、市当局に提案した。この提案は一部しか通らなかったが、まさに地域内の互惠活動によって循環型経済は

可能かという自らの仮説検証も含め、この大学構想を地域で生涯学習のボランティア活動として立ち上げることにした。始動して現在 14 年目であるが、設立の構想といくつかの具体事例を写真で紹介する。



大学構想案：市当局に提案(2000)
 桐生工業会厚木支部でも発表 (2004)
 地域通貨：「YEN」ではなく「ZEN」の流通を考えていた

トップ

設立趣旨

事務局

活動内容

人とのふれあい
情報支援・企画倶楽部

自然とのふれあい
自然環境づくり倶楽部

知とのふれあい
講座教室倶楽部

趣味とのふれあい
仲間づくり倶楽部

街とのふれあい
街づくり倶楽部

ボランティア
会員・入会

掲示板

連絡先

リンク

会員ページ

海老名を愛する市民が自ら運営する市民のための 情報環境支援組織

Ebina Green & Culture College (EG & CC)

あなたは。。。番目の訪問者です

掲示板



市の鳥 カワラヒワ

ふれあいねっと海老名：緑と健康の街づくり
= 生きがい / 仲間づくり / 助け合い / 街づくり

ホームページ：会員のみ (登録無料 現在~500名)
 ➤ 5つの事業案：5つの「ふれあいの場」に改定
 ➤ 地域通貨「ZEN」：互助互惠活動に改定

EGCC ふれあいねっと海老名 生涯学習の市民大学

わたし達みんなの **生き甲斐発見型** (サロン・サークル・塾・セミナーなど) です。
 お互い様(互助互恵)で・無理せずに・できることから をモットーに始めて 14年になります。

室内事業

ふれあいサロン (月例会・教室・他)

初級・中級パソコン教室 (毎日・教室)

環境教室 (セミナー・随時)

詩吟教室 (毎週木曜・教室)

健康マージャン教室 (毎週金曜・教室)

木工教室 (出前) リサイクルプラザ

木工教室 (出前)

植木教室 (出前)

室内コンサート (出前:開成町)

陶芸作品展 (海老名市民ギャラリー)

小学校サマースクール

研究発表講演会/セミナー (出前:横浜市)

市民農園 (出前:杉久保)

生ごみ堆肥化循環 視察ツアー/宮代町

室外事業 (出前教室)

ふれあいサロン・デジタルツアー・横浜

生徒さん・先生募集中 (会費無料)

運営組織: 会長 赤崎 豊 以下、生涯学習ボランティア 世話人・事務局10名で運営
 教室・事務局: 海老名市国分北 個人宅の1スペース ☎ 235-2324

写真右上 : ギタートリオ「杜」 永倉 (桑研)・宍戸・三沢の各氏

写真左上 : 環境教室 平成 21 年度海老名市後期公民館講座
 関口・赤崎 (桑研)



「室外事業」 : ふれあいサロン・イベントツアー (隔月)
 「鎌倉美味とハイキング (2012)」 ホテルで会食

三菱油化はどうですか？

荒居正和

1963年の春先の頃、桑村常彦先生から就職先の推薦がありました。「三菱油化はどうですか？」「三菱油化？はい。お願いします」と即答しました。しかし、三菱油化が、三菱グループが総力を結集して Shell と 1956年に設立した石油化学会社であることなどほとんど知りませんでした。「桐生の先輩で若林辰郎さんがいる。安保先生が同期だから、安保先生に聴きに行きなさい」と教えていただきました。

研究部門への配属は、桐生高専・群大卒としては初めてです。先生の後押しがあつてか毎年卒業生を送っていただき、群大卒の樹脂研究所の研究員は7人となり、学校別シェアではトップクラスになりました。暫くして、所長は先輩の山口保寿さんになりました。四日市事業所の桐生出身者は若林所長をトップに製造現場も加えると16人となり、工業会支部の様相でした。歓送迎会は料亭を使った豪華版で、非公式な社内情報も飛び交い、仕事をするうえで大いに助かりました。

先生が（財）群馬大学科学技術振興会・理事長として寄付金を集められていた時、「若林さんに頼んでもらえないか？」との依頼を受けました。若林さんは当時三菱油化専務取締役兼三菱油化・BASF社長でしたので相当な無理も利くのではと期待してお願いにあがったところ「1大学に寄付するというのも・・・」との一言前置きはありましたが快く引き受けていただきました。先生が期待していた金額だったか定かではありませんが、一応の希望を叶えることができました。

結婚して直ぐに家内と一緒にご挨拶に伺うと、教授室で、昼にカレーライスをご馳走していただきました。とびっきり美味しかったことを憶えています。

1990年に会社都合で三菱油化から BASF に転籍することになり先生の期待に反しましたが、1998年に BASF と日本企業との合弁会社の代表取締役に就任した時にご挨拶しましたら慶んでいただきました。また、樹脂研究所の仲間と 2000年に研究成果を単行本として発刊してお送りした時や、2005年に群大工学部の科学技術論講座で、会社での研究成果を取り纏めて「高性能プラスチックの開発と自動車への応用」として講義した資料を先生にお届けしたところ過分なお褒めの言葉をいただきました。

先生は「努力して手を届かせよ」と目標を与えて私を三菱油化に送り出されたものと思いますが、あるいは途中で尻尾を巻いて戻ってくるかもしれないと心配されていたのでしょうか。お目にかかる度に、先生は「その後、どうですか？」と優しく声を掛けられました。

桑村先生の思い出

塩沢 紘一

まずは先生と奥さんのお元気なお姿を

この写真は2012年4月11日藪塚の介護施設ブルーメンハイムに桑村先生ご夫妻を永倉と共ににお訪ねした折りに撮ったものです。この時私はフランスとアメリカで調香師として働いた43年間の生活からようやく二月初めに引退退職して、日本の満開の桜を久し振りに堪能するべく訪日したのでした。

この日永倉の運転する車で足利から藪塚の施設に共にやって来たわけです。永倉が別稿で書いているように、彼と一緒に先生ご夫妻を訪問するのは2010年の3月10日頃富岡町の施設訪問以来二度目の事でした。藪塚の施設は富岡のものより配光も良く廊下も幅が広く更に清潔感に満ちて居ました。

以前から背中をお病みになっている奥さんは車椅子に乗って先生のお住みの部屋までお出でになり、そこで先生ご夫妻と我々訪問者三人（永倉、私、私の妻）の五人でしばらく和気あいあいの座談に時を過ごしました。先生はとてもお元気で、少々お痩せになりちょっと小柄になったかな、と思った以外はまだまだお元気そのもので、かくしゃくたる印象を受けました。「もう少しで九十だよ」、と笑いながら仰っていました。奥さんもとてもお元気でした。仙台での学生生活が丁度戦争時代とちがってしまっと思う様に勉強に打ち込められなかったと言うお話、また、桐生に帰宅なされてからの苦労話しなどなさいました。しばらくして、昼食時になり、広々とした一階ロビーに大きなテーブルがあり、持参した昼食を皆で一緒に楽しみました。確か、先生も奥さんもよく召し上がったと記憶して居ます。再度先生のお部屋に戻り、お茶をご馳走になりながらしばらくお話した後、お別れしましたが、先生もすっきりとお立ちなさってご親切にお部屋から廊下に出る処までご一緒して下さい、そこで最後の写真を永倉に撮って貰った上でお別れのご挨拶をしました。



勿論私はアメリカの家に戻る訳で、いつ又訪日した先生にお会い出来るかは分からなかったのですが、まさかそれから半年一寸経って後の11月末に先生の訃報を受け取るとは全く思いも掛けない事でした。この訪問のおり、先生は御髪もまだまだかなり豊かでお声もしっかりして明晰、お耳も難聴の形跡は全く見られなかったし、お食事も良く進んだと私は見たわけで、五年はおろか十年程も、丁度百才迄も全うして下さるのではないかなどと思っていたのでした。残念でした。

先生にはアメリカの拙宅まで二度もお越し戴き、またお年賀状を始めお心のこもったお手紙も何通も書いて下さり遠国アメリカで働く私の安否を気遣い又応援して下さいました。先生の研究室では化学が嫌いで余り勉強せず、更に卒業後は化学を全く辞めて別な道を選んだ私の事が先生にはお亡くなりになる迄気懸りだったのかも知れません。

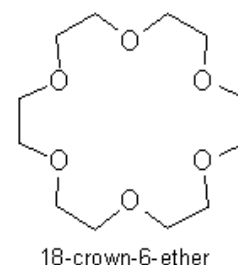
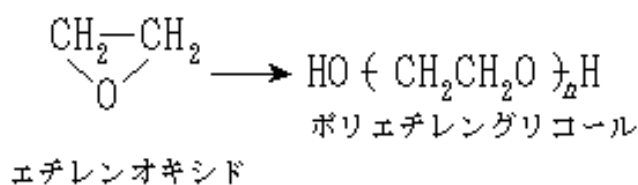
心よりのご冥福をお祈り致します。

もしかしたらノーベル賞

永倉 功

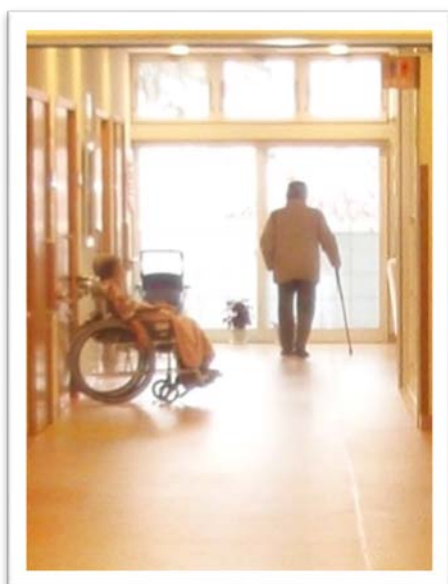
「頭のいいやつはちがうなー」久しぶりに訪れた桑村先生の教授室で先生がポツリとつぶやいたのを覚えている。1987年、デュポン社のペダーセンがクラウンエーテルの発見によりノーベル賞を受賞した。ご存知桑村先生はエポキシ重合やそのポリエチレングリコールを基にした非イオン活性剤の研究で実績を上げていた。エチレンオキサイド反応の過程で確率的には得られていたかもしれない、あるいは思考の上では出来ていたかもしれないクラウンエーテルをつかめなかったのを悔やんでいたのだ。

静かな昼下がりの教授室で、先のとつぶやきだけが強く印象に残っている。



桜

永倉 功



一昨年(2012年)アメリカから休暇で日本に来ていた塩沢夫妻と蕨塚の介護施設に先生夫妻に面会の機会があった。私は比較的近くにいながらなかなか行動せず、前回同様に塩沢夫妻の来日にあわせて富岡市の施設を訪れて以来二度目である。

先生は奥様とは別々の部屋で暮らしておられたが奥様が車椅子で先生の部屋に来てくださり皆で近況など語り合った。みれば先生の机の上には旅行のガイドブックが何冊か積み重ねられていた。今は旅行できないが見るだけで楽しんでいると言う。

昼は1階ロビーで塩沢の用意したお弁当を皆で食べ、部屋に戻ると時間はかなり過ぎていた。部屋は庭に面して外の新緑も見えた。

写真を撮って退室する際、ご夫妻でドアまで送ってくださった。部屋からは見えなかった廊下の突き当たりに桜が満開だった。先生は杖をつきながら廊下の隅に桜を追った。お元気な姿だったので、まさか六ヶ月後にお亡くなりになるとは思わなかった。逆光の廊下での光景は自分が先生を見た最後の姿になってしまった。

名古屋の観光案内

藤井誠之助

私が先生と親しく会話ができるようになったのは私が名古屋に転勤になっていたころで、先生が学会で名古屋に2, 3度来られた時に宿の世話を頼まれたり、休日の市内観光をしたりした時であった。

確か、先生が私の紹介したチサンホテルに泊まった時は近郊にいた荒居さんや永倉さんなどで先生を囲んで終電車になるまで話し込んだりしたのを覚えています。



名古屋は観光するところもなく、お城を案内しました。その時先生が写してくれた写真がありました。先生は写真が好きだったようです。日付を見ますと昭和52年です。

夜は駅の地下にある「常寿司」というところで食事をしたのですが、先生はその「常」が気に入り随分盛り上がりました。支払いは先生がするといって聞かず結局ご馳走になってしまった。そんなことがあって先生とはいろんなことが話し合えるようになりました。

現在の私の生活は「人生は死ぬまでの暇つぶし」と豪語した作家がいたがまさにその通りの生活で、囲碁に明け暮れ読書三昧でネタを仕入れ、プール、ジョギングで体力を消耗させ、晩酌に蘊蓄を傾け、何が何やらわからない生活。ただし、不平を言わず、怒りを抑え、ストレスが無いように努めております。

行道山の輪講合宿

荒居正和

桑村先生が卒業して大分経った会合で、「行道山の合宿は良かった」と話された時少しほっとしました。合宿では先生に飯炊き当番をお願いしましたが、「やや興に乗り過ぎたフライングだったかな？」とその後ずうっと気に掛かっていたからです。

「行道山合宿」は私の発案です。動機は、漸く油の回ってきた桑研39会メンバー全員で研究室とは異次元の空間で寝食を共にして化学を学び、同時にメンバー間の粘着力を強くしたいと考えたからです。

行道山浄因寺（足利市）は関東の高野山と呼ばれている古刹で、行基上人が714年に建立したと言われています。

1968年8月、約1週間本堂に籠りました。原書の輪講をし、先生やメンバーと朝から夜遅くまで議論をしました。飯炊きは当番制で、山男の永倉さんの指導でした。原書は先生が選んだのでしょうか？化学反応に関する内容だったと微かに覚えていますが、詳しくは思い出せません。ただ、メンバーでワイワイガヤガヤ議論をした記憶は今でも鮮明です。

輪講合宿は、私の過去の2つの体験が下敷きになっています。

一つは、吉水小学校（佐野市）3年の時、担任の先生とクラスの仲間で出流山満願寺（栃木市）で合宿をしたことです。満願寺は、日光輪王寺を開いた勝道上人が765年開山した真言宗の板東33霊場の17番札所で、広々とした本堂での読書、相撲、大きな風呂での入浴、雑魚寝や先生の手料理は別世界の体験でした。

二つ目は、佐野高校の1年の時の担任の先生の山籠もりの話です。先生は英語をものにするため夏休みに山寺に籠もったそうです。食事時間を出来るだけ少なくするため食事は豆腐のみとしたそうです。

或る発慶会の会合で「行道山の輪講合宿は、その後どうなりましたか？」と後輩に確認したところ「確か10年位は続いていましたよ」との答えでした。

「スキー合宿」に加えて「輪講合宿」が桑研の伝統として受け継がれていたことを知り嬉しく思いました。

桑研の思い出

中川芳高

我々は、昭和 39 年に卒業して以来、50 年という半世紀が過ぎ夫々悲喜こもごも経験をして来たが、社会に出る前の 1 年間、桑村研究室で先生方と我々 39 会メンバーで共に過ごせたことは、この 50 年間の人生に多大な影響を与えて貰った様に思う。

合成化学科の第一期生である桑村研究室のメンバーは、多士済々であり、桑村先生、亀山先生、高橋先生という素晴らしい師にめぐり合えたことも、この上ない幸せであった。

桑村先生は、研究だけでなく、スポーツマンで特に野球好きであり、他の研究室と試合をして我々のチームは殆ど負けた記憶がない強いチームであった。

平成 2 年頃に桑研出身者の有志で桑村先生を東京ドームのマウンドに立たせようという計画を立て、半日東京ドームを借り切って野球の試合をした。先生には東京ドームのマウンドに立って頂き、素晴らしいピッチングが出来たことは、さぞ満足された事と思う。

更に、マージャンを好み、先生の金庫にマージャンパイが保管してあって、実験の合間や行事が終わった後にマージャンを教えて頂いた。39 会メンバーでは、岩本、朝倉、藤井さんが強かった記憶がある。

この写真にもあるように菅平でスキーを楽しんだのも懐かしい思い出となっている。

永倉さんは、今も現役のギターリストとして活躍されているが、研究室で「アルハンブラの思い出」を聴かせて貰ったことが、鮮明に頭に残っており、スペインの「アルハンブラ宮殿」を旅行した時、思い出したものである。

それから、誰の所有の車か定かでないが、何人かで乗って岩宿方面へドライブに行った時、踏切上でエンストしてしまい、皆で押して難を逃れた思い出も懐かしい。

私が、保管していた写真（工学部の正門、桑研研究室、菅平スキー旅行、清津峡研修旅行）を添えますので皆さんに思い出して頂きたい。

<現在の生活について>

私は、三菱樹脂(株)に入社して以来、下記の色々な部門の経験をした。

1. 1960～1970 年：長浜工場で延伸フィルム製造、長浜研究所（塩ビの配合研究）

2. 1971～1972 年：粉体塗料・塗装の技術導入（アメリカ）、市場開拓
3. 1973～1975 年：三菱化学研究所で粉体塗料の製造研究
4. 1976～1982 年：平塚工場（塩ビ板、PP 板の製造）
5. 1983～1988 年：本社（新商品事業部）
6. 1989～1994 年：長浜工場（塩ビパイプ製造）
7. 1995～1998 年：日建産業(株)へ出向
8. 1999 年：三菱樹脂退職
9. 1999～2014 年：(株)川熱（粉体塗装、新製品開発、新事業開拓）

上記のように、仕事では色々な部門・場所を経験出来、そして趣味では各場所でテニスを通して各社の方々と交流した。特にオール三菱の大会に毎年出場し、現在も年 1 回のシニアの大会に出場し旧知の人達と再会してテニスを楽しんでいる。

最近は、地域のテニス仲間と 1 回/週のテニスとゴルフを楽しんでいる。

仕事の方では、三菱樹脂(株)を退職後、(株)川熱で 15 年間粉体塗装の研究開発に従事して新事業が展開出来たことは幸せであった。

今年 2014 年 8 月に退職して、仲間と小生が開発した加工技術を事業化して世の中に少しでも貢献しようと計画を推進している。

50 年間のサラリーマン生活を振り返ってみると、仕事やテニスでの色々な人との出会いが小生の人生を有意義なものにしてくれたことに感謝したい。これからも現在交際している方々や我々 39 会メンバーが健康である限り、交流出来ることを願っている。

桑村先生も天国から我々を見守っていて下さっている事でしょう。

以上

桑研の思い出

永倉功

その春新設の合成化学科の名前の魅力に加え桑村先生の人気は高く、桑研一回生希望者が殺到した。希望学生が階段教室に集まって話し合いするほどだった。そのあとどんな経緯があったか忘れたが研究室には個性のある学生がなんとなく集まったような気がする。桑村先生は教授室に集まった学生を前に、開口一番、「本の好きな人はいるか」と聞かれて、山登りばかりであり本を読んでなかった自分は戸惑った。専門バカになるなといった意味だったと思う。

研究室では野球、テニス、スキーをはじめマージャンも。学問よりもそちらに力が入る雰囲気になっていたが、勉強あつての遊びであろう。桑村先生が学んだ東北大学のバンカラと言う感覚を表面的に理解していたのだ。夏休みの合宿は足利の行道山、朝のラジオ体操、飯炊き、その後輪読。内容は確か熱力学だったと思うが内容がわからず自分の番が回ってくるのに胃がいたむ。ノートのらくがきに荒胃と書いたら横にいた荒居が突然笑いだし、その後も止まらず困った。

体験学習の工場見学は九州にテント持って荒居、関口、塩沢と出かける。海岸で自炊。チョット無理をしたので塩沢が途中帰ることになったが彼への配慮が足りず、悪いことした。あるときには研究室から見える対岸の山に荒居と登り、野うさぎに遭遇した。学園祭ではリヤカーに先生を乗せて繁華街を歩くなどなど記憶に残っているが、今となっては正確さもさることながら何が先で何が後かわからなくなって思い出す。

遊んでばかりのようだが、卒業研究もやりました。テーマは反応性脂肪酸(だったと思う)でエピクロロヒドリンを脂肪酸にくっつける。まず金属ナトリウムの関与する反応を、腕も悪いのだが、ゴムの栓のシールでやってたものだからうまく行かない。先生に相談すると、教授室の棚から新聞紙にくるまれたスリガラス栓のフラスコと水銀シールを大事そうに出してくれた。当時高価なガラス器具である。さて実験を始めたが水銀シールなど初めての体験だ。フラスコに水銀シールをセットして攪拌開始。そのフラスコにナトリウムを入れたところでシールの回転軸がぶれ始め、戸惑うのをよそにますます大きくぶれはじめ水銀シールが壊れて水銀がフラスコ内に入ってしまった。若干の熱を伴ってフラスコ内では銀色に輝くナトリウムアマルガムが見事に出来上がった。

そのとき先生のお答めはなかったが、出来の悪い学生にあきらめたのか、テーマが替わった。「オキサゾリドンの合成とその熱重合」。オキサゾリドンは文献とおりに出来た。それをガラス管に窒素を流しながらなんとバーナーで直加熱。予想とおりの発泡(たぶん二酸化炭素)がありその後炭化してしまった。化合物が黒くカラカラになった状況は皆に笑われた。でも、もしかしたら炭素繊維がそのときに出来ていたかもしれない。二度目は温度を下げて目ヤニのようなあめ色のものができた。軟化点など測ったがこれでよかったのかあいまいのままの卒業になった。

振り返ってみればどうしようもないことをやっていたのだが、怒りもせず暖かく見守ってくれたおかげで化学嫌いにならなかった。これがその後の長い研究や生産に関わる最初の大事な一歩だったのだ。

グリシジルエーテルの合成

藤井誠之助

まず、群馬大学工学部に入学し、桑村先生に巡り合えたことを心より感謝申し上げます。

3年から4年になる時点で、所属研究室の選択があった。桑研は人気の研究室で倍率が高かった。私は何とかその倍率の中にもぐりこむことができた。周りは優秀な学生ばかりでついていけるか不安であった。だから、輪講等の時はなるべく当たらないように隅の方を確保していた。

実験ではフラスコからエーテルの蒸気がこぼれ火がついて危うく災害になるところを高橋さんが手で塞いで事なきを得た。さすが手慣れたものと感心した。

先生と一対一で話し合ったのは研究テーマの話であった。私に与えられたテーマはγブチラクトンの合成であった。1年先輩の淵沢さんが途中までやっていたのでそのあとを引き継いだ形。その当時はそれがどのような目的で将来何に役立たせようと意図したのか知らなかった。それが理解できるようになったのは卒業後のことだ。繊維の防水加工を考えていたようです。私は朝から晩までグリシジルエーテルの合成をしていた。夜通しの実験では麻雀をよくやった。中川さんが家から持ってきた見事な象牙パイを使用していた。先生も時には加わっていた。

でも先生はなんとなく私には怖い存在であった。とてもとてと親しく話などできる状態ではなかった。それでも就職試験の時には気を遣っていたようです。「試験に落ちたら学校に残ったら良いんだよ」なんて嬉しい言葉もかけてくれた。気休めだとわかっていてもありがたかった。

2003年 第一回桑研39会 於、ホテル きのこの森

関口勝宏

新緑が目鮮やかな折、我が母校のある桐生の「ホテル きのこの森」で2003年5月23日、桑村研究室39年卒三九会を開催しました。39年卒で偶然にも39年ぶりの節目に始めて再会の級友も何人かおりました。卒業後このクラスの有志が何度か集まりはしましたが、正式には今回が卒業以来初めてと記憶しております。



名簿にエントリーされた11名のうち9名がきのこ茶屋の夕食会に出席し、桑村常彦先生、亀山榮一先生及び飛び入りで38年卒の淵沢徹郎先輩を交えて、夫々歓談しながら近況を報告し、その後米国在住の塩沢君が東京での会議終了後駆けつけるのをホテルのバー「わらいたけ」で待って生ビール・日本酒・冷酒・焼酎を楽しみながら夜の

更けるのも忘れて深夜かんぱんまで歓談しました。

桑村先生には、ゴルフのお疲れがあらうに最後の最後までお付き合いをして頂きました。本当にお元気でした。後日、お電話で記憶を失うほど楽しく過ごされたとのことご連絡を頂くとともに全員のスナップ写真を撮り、プリント配布のご手配までして頂き先生の気配り・思いやりは昔も今も全然変わっておりませんでした。

顧みますと、群馬大学工学部化学系の専用建物に合成化学科第一期生として学び、石油化学産業の黄金時代に卒業後直ぐ世に出た者、更に東北大学の院生としてドクターコースを極めた者、各々産業界に生々流転、ここに約38年の会社生活の歴史を閉じて悠々自適・ボランティア活動、継続現役、起業家、自営でコンサルタントと様々ですが、過ぎる年には逆らえずこの2-3年で全員が還暦を迎えました。

偶然とは重なるもので、この日は桑研のOB会恒例の第25回発慶会ゴルフコンペもあり、我が三九会からは、荒居・赤碕・小林・関口・中川が参加。80歳の桑村先生も元気いっぱいラウンドされ皆ビックリ、一同先生を見習い、先生を目標にしてこれから我らもガンバロウと全員一致。

桑村研究室出身者は、「一つ釜の飯」的感覚か、エンジニアの仲間意識か、奇妙な連帯感を持ち、桐生を出て日本は言うまでもなく世界のどこへ行っても

又回帰する故郷の温かさがあります。このような家庭的雰囲気の中の出会いは旧交を温め懐かしく楽しいものでありました。

止むを得ず欠席となりましたが、鹿島加工サービス(株)を起業し社長業に忙しい者（藤井誠之助）、退職前勤めた外資系薬品会社ファイザーのコンサルタントながら、まだトリオでギター演奏会をしている者（永倉功）。四日市の海外提携会社のコンサルタントながら、毎週ゴルフができる者（荒居正和）、海老名市で環境市民大学を設立しボランティア活動に忙しい者（赤崎豊）、幸せにも国内で現役にてハイシート工業(株)／(株)川熱で重役をしている者（小林義広／中川芳高）、米国で化粧品会社A V E D A取締役調香師として現役の者（塩沢紘一）、環境（EMS）コンサルタントをしている者（関口）、悠々自適の生活をしている者（岩本好右・朝倉信人・木村 清）など多士済々、夫々にまだまだ第一の人生をまたは第二の人生を有意義に楽しんでいるようでした。

年に一度、桐生の山々の草木が萌え立つ万緑の頃、再会を約し満たされて翌日散会しました。

2004年 第2回桑研39会 於、ホテルきのこの森

荒居正和

平成16年(2004)5月28日、桐生の「ホテルきのこの森」で桑村研究室39会の卒業40周年を祝う会を開催しました。参加者11名のうち桑村常彦先生、亀山榮一先生をはじめ5名は、足利市の城山カントリー倶楽部で同日開催されました第27回発慶会(桑村研究室OB会)のゴルフコンペでプレーした後、会場入りしました。



1次会は「きのこ茶屋」で串焼き料理と酒そして出席者のスピーチを楽しみながら懇談しました。2次会はホテル内の「わらいたけ」で夜の更けるまで歓談しました。

桑村先生のお話しでは、かつて先生の友人(東北大教授)が「桐生はHeidelbergに似ている」と言われたそうです。お話しを伺いして、どことなく桐生川はNeckar川に、吾妻山の道はPhilosophenwegに似ているように思えてきて嬉しくなりました。そして、桐生川の一部でも桐生キャンパス内に通すことが出来たらCambridge大学のCollegesの間を流れるCam川のように岸边の逍遥や舟遊び(Punting)等ができるだろうと勝手な思いを膨らませながら桐生を後にしました。

桑村常彦先生

根岸研から独立して最初に39年卒業生を受け持ちました。配属された学生は多士多才でした。卒研のテーマは多岐にわたりましたが、各自工夫してこなしてくれました。徹夜の実験、野球、麻雀、コンパ、夏の足利の行道山浄因寺本堂での輪講合宿、冬の菅平でのスキー合宿、工学祭での市中行進など学生と機会あるごとに交流できたことが良い思い出です。

亀山榮一先生

先生のお嬢さんやご親戚の森平三郎先生(元教授及び山形大学学長)と菅平のダボスに桑研でスキー合宿したことを良く覚えています。最近スキーに熱中していて、去年はカナダ、今年アメリカまで遠征しています。

赤崎豊(元富士ゼロックス)

海老名市で環境大学を主宰しています。実体験を通して、市民に環境問題を考える機会を創っていますが、市の予算が減額されているいろいろな制約があります。来月工学部で環境の講義をします。

朝倉信人 (元積水化成品)

会社では発泡スチロールを担当しました。定年後は農業やドラフトビールづくり等をしています。(きのか茶屋に自家製のドラフトビールを持参され、参加者に振る舞われました)

荒居正和 (元三菱化学及び BASF, 現 KIBP 代表)

桑村先生の「三菱油化はどうですか」の一言で三菱油化に入りました。仕事はポリオレフィン、エンブラ、自動車塗料等の材料開発でしたが、発慶会に参加して世界で戦う元気をいただきました。現在は経営コンサルタントをしています。

岩本好右 (元カネボウ)

高校時代とは正反対に大学では猛勉強しました。カネボウでは、桑研での卒研が界面活性剤という理由で化粧品に配属されました。配属時何故化粧品と思いましたが化粧品を担当しましたお陰で繊維関係の同期より長く会社務めができました。

小林義広 (ハイシート工業 (株) 技術顧問)

卒業以来一貫して低発泡 PE シートの仕事を担当してます。太陽光発電用封止シートの急速な伸びで増設につぐ増設です。当分辞めさせてもらえそうもありません。

関口勝宏 (元モービル石油、現 KSMJ 代表)

ISO の環境コンサルタントをしています。1/3 位を仕事に充てていて、毎日が忙しい。来月は工学部で環境の講義をします」

中川芳高 (元三菱樹脂、現 (株) 川熱役員)

三菱樹脂でのパウダーコーティングの経験を生かして (株) 川熱ではマンホールへのパウダーコーティング等に取り組んでいます。滑り止めが良く、最近横浜市で採用されました。世の中に役立つ製品造りを目指しています。

永倉功 (元ファイザー製薬、現 Circle Chem. 代表)

卒業後いろいろ経験しました。昨年愛知県から故郷の足利市に転居しました。現在は陶芸に没頭してしまして、好きな絵を描く時間ありません。ギターのコンサートを月 1 回位のペースで開いています。

藤井誠之助 (元旭電化、現鹿島加工サービス (株) 社長)

考えるところがあり一大発奮して大学に入りました。旭電化では営業に配属され苦労しましたが営業経験が会社で飛躍するバネになりました。現在は旭電化の一部門を買い取り、社長をしています。

2007年 第3回桑研39会

永倉功

三年ぶりの桑村研究室39年卒クラス会を2007年25月24日きのこの森、桐生国際ホテルで開催。桑村先生は急にご都合が悪くなりお目にかかれないのが残念でしたが、亀山先生、高橋先生、39年卒8名が集まり旧交を暖めた。

みな65歳を越えて立派な白髪 and/or 薄髪になったが出席8名中6名がいまだ仕事現役で張り切っている。宴会の後も深夜まで語らい。その数時間後の朝、有志が集ってゴルフ。あいにく雨にたたられたが、さらに友好をあたため、二日酔いならぬ二日良い日となった。



「これから工事現場---でなくて、ゴルフ」

亀山先生；腰痛に苦しんでいるが、なぜかゴルフとスキーの時には痛くない、とのこと。

高橋先生：読書（とくにギリシャ神話）、それに音楽に没頭中。奥様のエレキトーンに即興でエレキベースであわせるのが楽しみ。居酒屋でも演奏する腕前とか。

赤崎豊；最近は、父の代から続いた実家の会社整理に忙しい毎日。9時に寝て4時起きので健康生活。ご近所のお年寄りとバードゴルフにも参加、ゴルフの練習に役立ちます、と推奨。

藤井誠之助；会社顧問として優雅な生活。4キロのジョギングと文学全集を読みふける毎日。最近宇宙の本を読むうち量子力学にも考えが至ったという。

荒居正和；二つの会社のコンサルタントを勤める。60代の第一優先目標は80歳でも元気にゴルフのできる体力づくり。12時までには寝て8時間は眠るようにしている。

岩本好右；鉄道模型づくりは材料の真鍮を切り出すことから始める本格派。ドライブも趣味。

関口勝宏；2年前に心筋梗塞の早期発見で助かった。今は健康体でコンサルタント業に加え庭の仕事にも張り切っている。

小林義広；会社役員が多忙な仕事にもかかわらずテニスも一流。今年からベテラン65才のクラスになり全日本選手権出場を目指している。

中川芳高；会社役員として多忙な合間にテニスを楽しんでいる。

永倉功；ギター弾いたり陶芸やったり、新たな交流の広がりが出て忙しい。カメラもって裏山を散策するのが日課。

2010年 第4回桑研39会 於、木曾路銀座店

荒居正和

平成22年(2010)3月8日、桑村研究室39会の10名が鳩居堂近くの「木曾路銀座5丁目店」に集まり、近況を語り合いました。関口さんが幹事となり、米国在住の塩沢さんのタイトな訪日スケジュールに合わせて場所を今回は銀座としました。会食の2時間半では話しが尽きず、1ブロック南の「トリコロール本店」に場所を移し、コーヒーを飲みながら暫く語り合った後、散会しました。



次回は、日時を塩沢さんの来日に合わせて1-2年後、場所を桑村常彦先生ご夫妻のお住まいの富岡近辺の温泉宿とし、全員揃って先生にご挨拶に伺うことにしました。

出席者の近況は以下の通り。(敬称略、50音順)

赤崎豊(元富士ゼロックス、海老名市在住)

退職して10年、3月で70歳。鴻巣市の実家の会社清算に約10年かかり、やっと定年を迎えた心境です。自宅に本拠を置き、地域の有識者やボランティアが集い、一緒にものづくり、木工、ガーデニングなどの実技講座、環境や経済の教養講座を開設し、市民生きがい大学と称して活動しています。先日、市からの要請で、関口さんと2人で温暖化対策の全6回の公民館講座を行いました。2人で講演をするのは思いの外楽しく、受講生にも好評でしたので今後も続けたいと思っています。健康維持のため、月2-3回のゴルフ、週3回は近所仲間とバードゴルフをしています。また、週2回は自宅のパソコン教室で教え、隔週1回は公民館で哲学史のセミナーに参加しています。紀元前に、我々が現在考えていることを既に考えていることを知り驚くばかりです。

朝倉信人(元積水化成品、桐生市在住)

定年後に60坪の農地を借りて、無農薬・有機栽培でスイカ、メロンづくりを始め、各種の野菜を作っています。我が屋の野菜の自給率は80%を超えています。農業は年1回しか勝負するチャンスが無いので、これから何回できるのか限られています。その為、データを取り、パソコンに入力して管理しています。収穫物は近所に配っていますが、次の課題として保存法や料理にも興味が広がっています。畑と自宅との往復で月に200,000歩あるき、自転車ですら月に200Km走っています。健康維持とCO2削減に貢献しています。

荒居正和(元三菱化学及びBASF、現KIBP代表、名古屋市在住)

東京駅から丸の内仲通りを歩いて銀座まで来ました。仕事をしていた当時の三菱本館は他のビル群を凌いでいましたが、その後に建てられた200m超のビルに押されて、今は影が薄いように思えました。定年後、関口さんのご指導を

得て個人会社を立ち上げ、契約先の役員も兼務して月に1-2回仕事をしています。晴耕雨聴。月に2-3回ゴルフコースのフェアウェイを耕しています。クラブの競技や同好会の月例の他、三菱化学、栃木県人会、群馬県人会、群大工業会等の例会にも参加しています。雨の日は専らクラシック音楽を聴いています。BASF（本社：ドイツ）へ出張した折に3大B（バッハ、ベートーベン、ブラームス）の生誕地やゆかり場所を案内していただきました。特に「ブラームスは良いよ」と薦められましたが、現役時代は落ち着いて聴くことが出来ませんでした。今はブラームスの「ヴァイオリン協奏曲」がお気に入りです。

岩本好右（元カネボウ 我孫子市在住）

退社時いろいろな誘いがありましたが断ってフリーとなり、7年になります。趣味はオーディオで、聴くことや秋葉原で部品を買ってきてセットを組立てることです。99%クラシック音楽です。他に、真鍮板を切ってハンダ付けをして鉄道模型等をつくることです。我孫子には水田が一杯残っていて、鉄道模型を走らせる設備も数多くあります。ボランティアでハンダ付けの講習会を開いて、子供達に教えています。

小林義広（元ハイシート工業（株）、ひたちなか市在住）

最近会社を訪問したところ、最後に開発を担当したソーラー発電用接着フィルムがこの3年で6倍に拡大していることを知り大喜びしました。週3-4回はテニスをしています。65歳以上のクラスのオールジャパンのテニス大会（元プロも含んで、出場選手枠は32人）に4年間連続で出ています。

塩澤紘一（現（米）AVEDA、Natural Perfumer , Director Botanical Aroma Lab（米）ミネアポリス在住）

現役の調香師として、化粧品に香りをつける仕事をしています。AVEDAは社員600人弱（6割が女性）で、原料を全て自然物とする環境保全意識の高い化粧品会社として33年前発足しましたが、9年前の社長交代で有機栽培の原料を使うように変わりました。以前は他の調香師同様3,000種類近くの芳香原料、特に化学物質を主に使って調香していましたが、19年前AVEDAに入ってから人生が変わりました。最初の11年間は自然の原料のみ300種類弱、その後8年前からは有機原料100種類前後と減り、少ない品種で同等の効果を挙げるのに毎日四苦八苦です。ミネアポリスは北欧系、ドイツ系の移民の土地で質実勤勉な人たち、それに美人の多い所です。湖も沢山あります（一万湖以上とか）。南仏ニース近くのグラスの町で調香の仕事を学びましたが、たまたま訪仏した高砂香料の中西社長の誘いもあって、次の飛躍を求めて米国に渡りました。趣味は読書とピアノを弾くこと。昼休みに社内でラケットボールをしたり、社内のジムで体を鍛えています。

関口勝宏（元モービル石油、現KSMJ代表、調布市在住）

民族系の石油開発会社のタイ、カンボジアのプロジェクトの安全・環境影響評価や米系薬品会社の内部統制・CSRのコンサルタント等国内・外広く活動しています。モービルの仲間との月一ゴルフや犬（ラブラドル）の散歩（12,000歩）を日課にしています。10坪の家庭菜園もしています。最近僧侶から聴いた

話で、「人」という字は、左の長い線は男性を表し、右の短い女性の線が支えている。男性は女性の支持線が無くなると倒れて、平均2年で亡くなる。女性は、男性の長い線の重しが取れるピンと真直ぐに伸びて、平均7年長生きする。長生きには、女房孝行が大事との教えです。

中川芳高（元三菱樹脂、現（株）川熱、藤沢市在住）

（株）川熱には週4日出勤し、三菱樹脂時代のパウダーコーティングの技術を生かして、防錆鉄筋の新製品開発を担当しています。旧来のエポキシ樹脂による防錆の問題点はポリビニールブチラールを開発して材料転換することで解決出来ました。山手線に設置する防護柵に採用される予定です。趣味はテニスで、プレーをする一方NPOで老若男女を指導しています。

永倉功（元ファイザー製薬、足利市在住）

年1回程度は仕事をしています。食事当番を1日交代でしているので、仕事があると女房が嫌がります。昔は給料を渡して女房を食わしていましたが、今は飯をつくって食わしています。食事づくりは化学実験の手順のように結構楽しく、レシピも工夫し増え続けています。趣味は陶芸とギター。手の故障で一時中断していましたが再開しました。仲間とのコンサートを平均月に1-2回開いています。陶器づくりでは、形づくった土が軟らかいうちは裏の山を散歩したり鳥の写真を撮ったり、渡良瀬川の堤防を散歩して返ると丁度良い具合に土が硬くなっていて次の作業にかかれます。「川の流れ」のような生活を楽しんでいます。

藤井誠之助（元旭電化、浦和市在住）

系列の「鹿島加工サービス（株）」の社長を辞めて2年になります。会社は従業員250人、売上高10億円の人材派遣会社です。平均寿命までの残りを消化試合のように過ごすのは真っ平なので、好奇心を持って毎日生活しています。晴走雨読。晴れの日、1日に4Km走り、週3回はプールで泳ぎます。雨の日は図書館で「量子力学」「ユングの心理学」そして最近は『和算』と読み進んでいます。また、川柳を最近始めました。近作2句。「メール来て開いてみればバイアグラ」「まだ早い電話を取れば墓地案内」

発慶会ゴルフ会

荒居正和

発慶会ゴルフ会は桑村研究室のOB会である発慶会の分科会で、第1回を昭和56年(1981)秋に開催して以来毎年開催し、今年は31年目に当たります。永続きの理由は、①桑村常彦先生が壮健で一緒にプレーされること、②事務局の清水暢彦さんが面倒見の良いこと、③参加者同士が気楽に親睦できること、と思います。

開催場所は、桑村先生のお住まいのある桐生市の近郊で永らく続けてきましたが、先生が富岡市に転居されました平成21年(2009年)以降は富岡市の近くに変更しています。

発慶会には、3パット以上、OB、及び池ポチャは各200円(但し、上限は1000円)のチャリティのルールがあります。コース上では、ニアピン賞やドラゴン賞を狙って互いに技を競い合いますが、パーティではワイワイ・ガヤガヤと和やかに過ごします。チャリティの上納金がパーティの軍資金に回りますので、飲み物・食いは自ずと質・量とも限られています。そんなことなどなんのその、談論風発は限りなく続きます。

(2011年10月21日)

優勝者

2011年10月21日現在

No.	開催日	ゴルフ場	優勝者
1	1981 S56 秋	記録なし	猪熊精一
2	1982 S57 秋	記録なし	亀山榮一
3	1983 S58・10・1	記録なし	細谷英雄
4	1984 S59・9・1	ノーザンCC	藤原辰夫
5	1985 S60・9・21	桐生CC	淵澤徹郎
6	1986 S61・9・6	桐生CC	関口勝宏
7	1987 S62・10・4	鳳凰/城山	藤原辰夫
8	1988 S63・10・7	太田双葉CC	(台風のためサスペンド)
9	1989 H1・11・17	足利CC	赤崎豊
10	1990 H2・11・4	鳳凰CC	朝倉員弥
11	1991 H3・10・12	城山CC	朝倉員弥
12	1992 H4・10・9	城山CC	朝倉員弥
13	1993 H5・10・22	城山CC	坂田茂
14	1994 H6・10・21	太田双葉CC	中川寛
15	1995 H7・10・20	太田双葉CC	森田成
16	1996 H8・10・25	太田双葉CC	茂呂居正明
17	1997 H9・10・24	グリーンパークCC	石田明
18	1998 H10・10・23	大平台CC	清水暢彦
19	1998 H11・10・15	伊香保国際CC	淵澤徹郎
臨時	2000 H12・5・19	足利城CC	清水暢彦
20	2000 H12・10・27	足利城CC	近藤寛

付属資料 (5)

21	2001	H13・5・18	足利城CC	茂呂居正明
22	2001	H13・10・26	城山CC	朝倉員弥
23	2002	H14・5・24	城山CC	坂村正二
24	2002	H14・10・25	城山CC	朝倉員弥
25	2003	H15・5・23	城山CC	小林義広
26	2003	H15・10・17	太田双葉CC	山口進也
27	2004	H16・5・28	城山CC	桑村秀明
28	2004	H16・10・22	城山CC	石川修
29	2005	H17・5・27	城山CC	坂村正二
30	2005	H17・10・21	太田双葉CC	石川修
31	2006	H18・5・26	つつじヶ丘CC	清水暢彦
32	2006	H18・10・27	つつじヶ丘CC	近藤寛
33	2007	H19・5・25	つつじヶ丘CC	森田成
34	2007	H19・10・19	つつじヶ丘CC	橋本康雄
35	2008	H20・5・16	つつじヶ丘CC	茂呂居正明
36	2008	H20・10・24	つつじヶ丘CC	尾崎晃男
37	2009	H21・5・22	富岡CC	笹木藤雄
38	2009	H21・10・23	富岡CC	森田成
39	2010	H22・5・21	富岡CC	茂呂居正明
40	2010	H22・10・22	レイクウッド富岡	尾崎晃男
41	2011	H23・5・27	緑野CC	荒居正和
42	2011	H23・10・21	緑野CC	中川寛

仙台小唄

作者不詳
採譜編曲 永倉功

Guitar

The guitar score is written in treble clef with a key signature of two sharps (F# and C#) and a 4/4 time signature. The tempo is marked as quarter note = 80. The score consists of six staves of music, with measure numbers 4, 7, 10, 13, and 16 indicated at the beginning of their respective staves. The music features a mix of eighth and sixteenth notes, often beamed together, and rests. The piece concludes with a final chord in the sixth staff.

仙台小唄

杜の都の花乙女
月にさおさす広瀬川
今宵一夜の恋心
仙台仙台なつかしや

夏の祭りは七夕に
星も逢瀬の笹の露
君と歩みし思い出の
仙台仙台なつかしや

青葉城下に秋たけて
ネオンきらめく一番丁
三味の音色もなきぬれて
仙台仙台なつかしや

恋も涙も思い出も
雪にうもれる北の国
しだれ桜に春を待つ
仙台仙台なつかしや

年表

(本文集から作成)

西暦	日本年号	月	日	桑村先生		発慶会	桑研39会
				年齢	主な出来事		
1922	大11	8	3	0	誕生		
1960	昭35			38			入学
1961	昭36			39			
1962	昭37			40			
1963	昭38			41			桑研配属 行道山合宿/清津峡旅行
1964	昭39			42			菅平スキー合宿 卒業
1965	昭40			43			
1966	昭41			44			
1967	昭42			45			
1968	昭43			46	国際会議、パリ		
1969	昭44			47			
1970	昭45			48			
1971	昭46			49			
1972	昭47			50			
1973	昭48			51			
1974	昭49			52			
1975	昭50			53			
1976	昭51			54			
1977	昭52			55			
1978	昭53			56			
1979	昭54			57			
1980	昭55			58			
1981	昭56	9	5	59		還暦祝い	
1982	昭57	8	3	60	還暦		
1983	昭58			61			
1984	昭59			62			
1985	昭60			63			
1986	昭61			64			
1987	昭62	10	3	65	退官	退官記念祝賀会	
1988	昭63			66			
1989	昭64・平1			67			
1990	平2			68			
1991	平3			69			
1992	平4	5	2	70	古希	東京ドーム 古希祝い野球	
1993	平5			71			
1994	平6			72			
1995	平7			73			
1996	平8			74			
1997	平9			75			
1998	平10	9	26	76		第1回総会	
1999	平11	5	29	77	喜寿	喜寿・勲三等叙勲記念祝賀会	
2000	平12			78			
2001	平13			79			
2002	平14	8	3	80	傘寿		
2003	平15	5	23	81			第1回桑研39会
2004	平16	5	28	82			第2回桑研39会
2005	平17			83			
2006	平18			84			
2007	平19	5	24	85			第3回桑研39会
2008	平20	9	27	86		第2回総会	
2009	平21			87			
2010	平22	3	8	88	米寿		第4回桑研39会
2011	平23			89			
2012	平24	11	6	90	卒寿 永眠		
2013	平25	2	9			桑村先生を偲ぶ会	
2014	平26	10	25				第5回桑研39会
2015							

桑研39会名簿 (2014年10月現在)

氏名	〒	住所	自宅電話	E-Mail
荒居正和	464-0056	名古屋市千種区月見坂町2-6-401	052-757-4176	arais@io.ocn.ne.jp
赤崎 豊	243-0406	海老名市国分北2-16-16	046-235-2324	yakasaki@silk.plala.or.jp
朝倉信人	376-0042	桐生市堤町3-11-29	0277-22-3793	nasakura@aq.wakwak.com
岩本好右	270-1108	我孫子市布佐平和台1-3-812	0471-89-4047	
木村 清	247-0033	横浜市栄区桂台南1-14-19	045-894-2737	
小林義広	312-0052	ひたちなか市東石川3528-40	029-274-2024	yo-kobayashi@excite.co.jp
関口勝宏	182-0024	東京都調布市布田6-43-11	042-485-8645	kxsekigu@aol.com
塩沢紘一		1343 Horseshoe Court, White Bear, LK, MN55110-2282 USA	+1-651-765-4456 +1-763-783-4079	koichi.shiozawa@gmail.com
中川芳高	252-0814	藤沢市天神町1-10-16	0466-81-3990	nakagawa@kawanetsu.co.jp hat43860@tree.odn.ne.jp
永倉 功	326-0824	足利市八幡町215-9	0284-73-0327	isaonaga@02.watv.ne.jp
藤井誠之助	336-0911	浦和市三室1410	048-873-3842	4966igzt@jcom.home.ne.jp
亀山榮一	376-0056	桐生市宮本町2-11-12	0277-22-0653	kameyama@ktv.ne.jp
高橋秀男	376-0031	桐生市本町1-2-12	0277-44-6280	
沢井絹子	359-1118	埼玉県所沢市けやき台1-53-1-501	04-2925-3019	

桑村常彦先生と桑研の思い出

2014（平成 26）年 10 月 25 日

群馬大学工学部合成化学科桑村研究室 桑研 39 会

卒業 50 周年を祝う会 幹事 永倉功

桑村常彦先生と桑研の思い出 編集者 荒居正和